

宇部・小郡地域の旧石器

南方・長榊・岩上・藤尾遺跡編

— 遺物写真集 —

2 0 1 1

防府考古学研究会

目次

はじめに

凡例

南方遺跡 1～10

長楸遺跡 11～18

岩上遺跡 19～22

藤尾遺跡 23～27

旧石器発見の経緯（宇部・山口） 28～30

山口県の旧石器時代の遺跡 2011 31～36

山口県の旧石器、遺跡の現状と未来 36

石核で気づいた点（打面なしコアについて） 37

細石刃の集中とナイフ形石器の分散 38～39

終わりに

はじめに

※初めて見つけた細石核

南方遺跡で初めて黒曜石の細石核を見つけた時は、本当に「ヤッター」という感じで、なんと言って良いか、わからないほど感激した。本当に地球が反対に回るかと思いましたよ。人間っておもしろいですよね。その直後、黒曜石の細石核が石炭に思えてきて、爪をたてたらボロボロと崩れて行く気がしたのです。黒曜石の細石核がそう簡単に見つかるわけもないし、「きっとこれは嘘だ」信じられなくなってきたのです。力一杯、爪をたてて見たが割れません。頬をつねってみて、夢ではない間違いなく見つけたのだ。

凡例

- 1、この遺物は、長沢考古学研究会及び防府考古学研究会の会員が採集したものです。
- 2、石器の写真は約7cmを超えるものを除き、およそ実物の大きさになっています。約7cmを超えるものは写真の左下に*を入れています。遺物の背面は、1mm方眼紙です。
- 3、石器ではないものも含まれていると思います。
- 4、写真は素人ですので、色調など十分反映されたものではありません。
- 5、石器名は書きません。各自が判断してください。
- 6、角錐状石器とは舟底形石器、舟底形尖頭器、三稜尖頭器などの総称である。
- 7、37ページの「石核で気づいた点（打面なしコアについて）」は40年位前に書いていたものです。本にする機会がなく、この度、見直して掲載しました。

※細石核と打面なしコアの違い

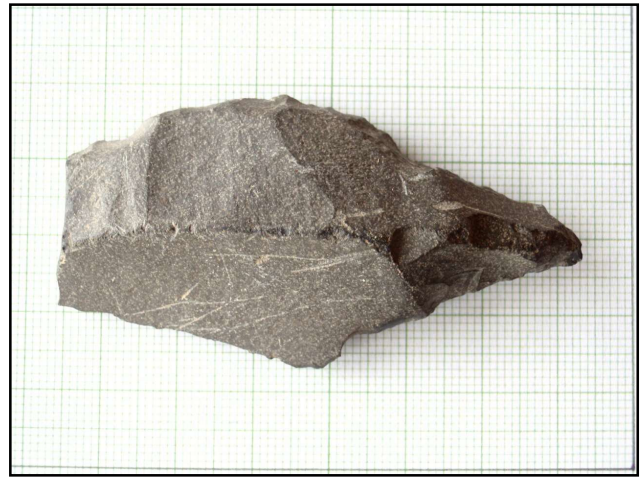
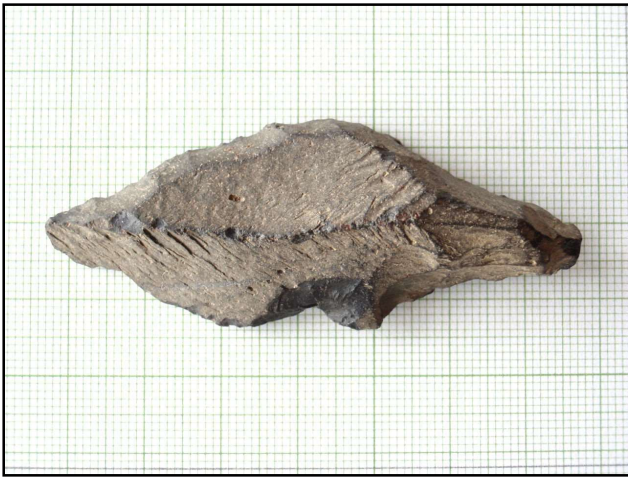
	打面	剥離
細石核	打面があり、打面が良くないと細石刃が剥離できない。	一方向、打面側から剥離される。
打面なしコア	打面が少ないまたは打面がない。	両端からの剥離が認められる。

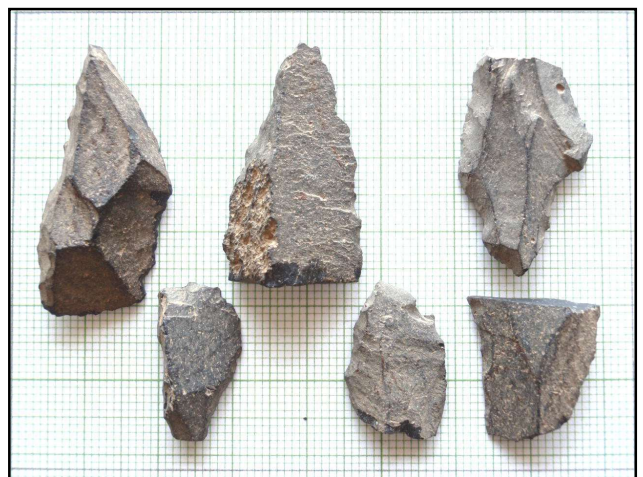
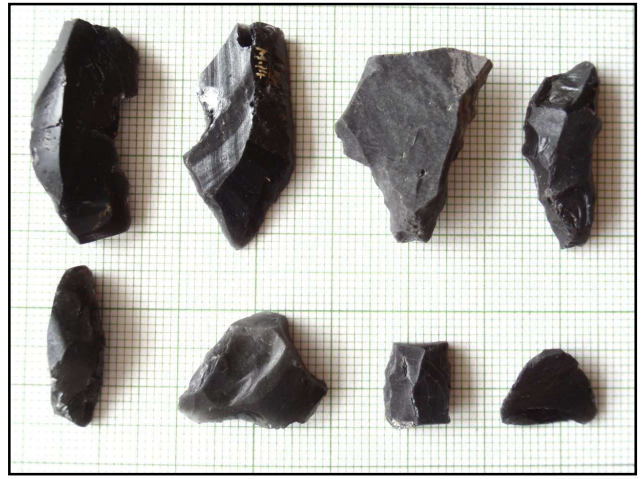
- 8、長桝遺跡の2地点採集石器のみ地点を記入しています。記入のないのは1地点採集の石器です。

南方遺跡

「遺跡の概要」

宇部市西岐波字山村上ノ山に所在する。宇部線床波駅の北北東約 1.5km で、側には南方八幡宮がある。西方の沢波川に向かって突出する中位段丘端部の平坦面にあり、遺跡中央を市道が通っている。現状は畑地で、赤色粘土層が露出しており、現水田面との比高約 20m、標高約 30m である。散在規模は約 100m×約 300m である。旧石器時代の遺物は、ナイフ形石器、台形石器、剥片尖頭器、角錐状石器、彫器、搔器、削器、細石核、細石刃などがある。その他に、縄文時代の石鏃、石匙、石錐などが採集されている。







*

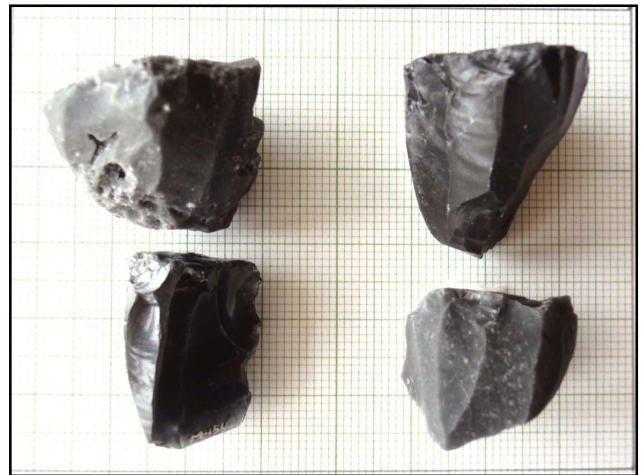
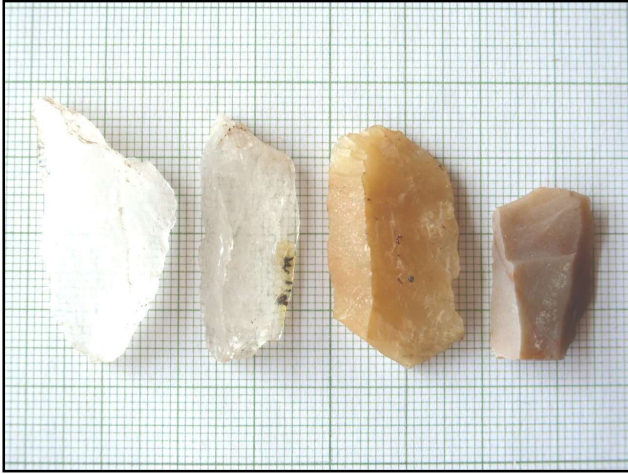


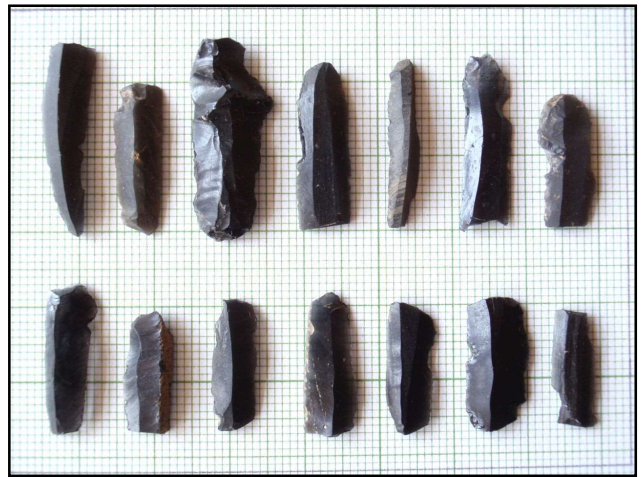


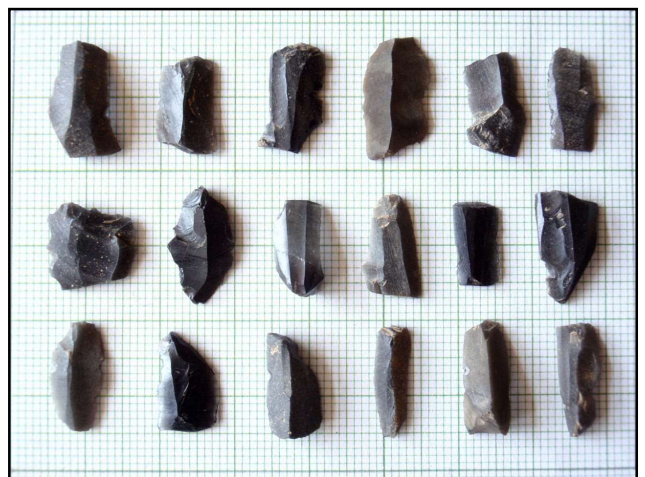
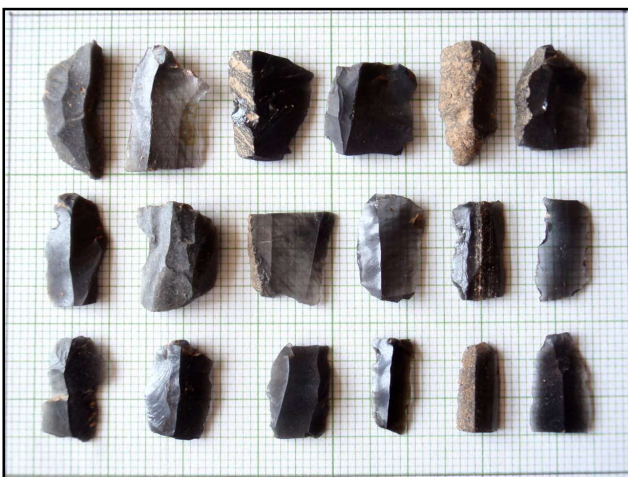
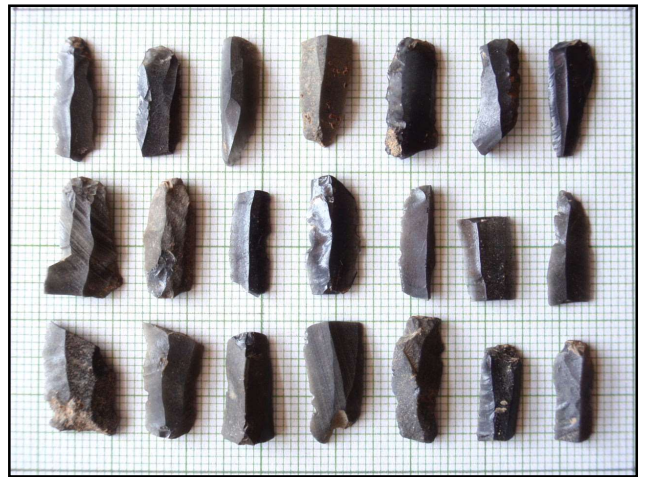
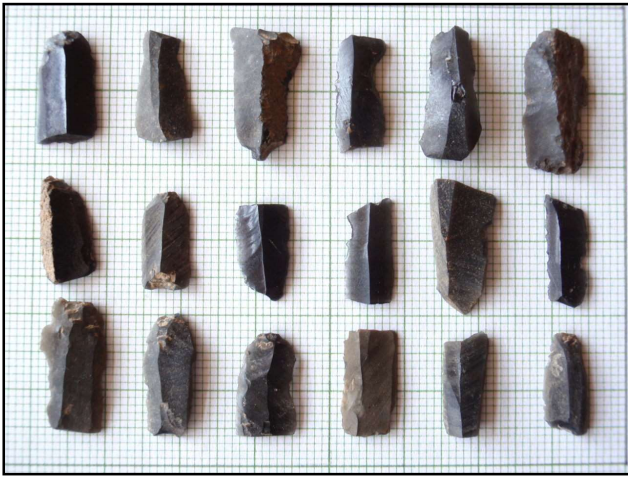


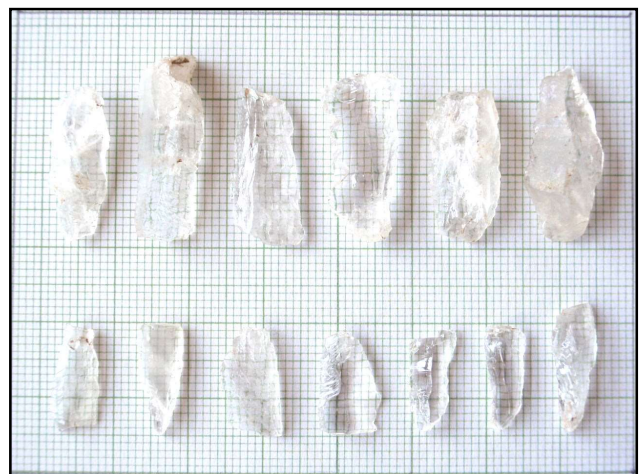
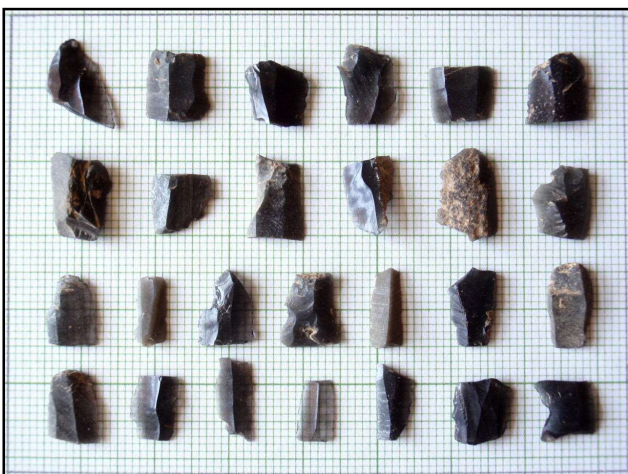
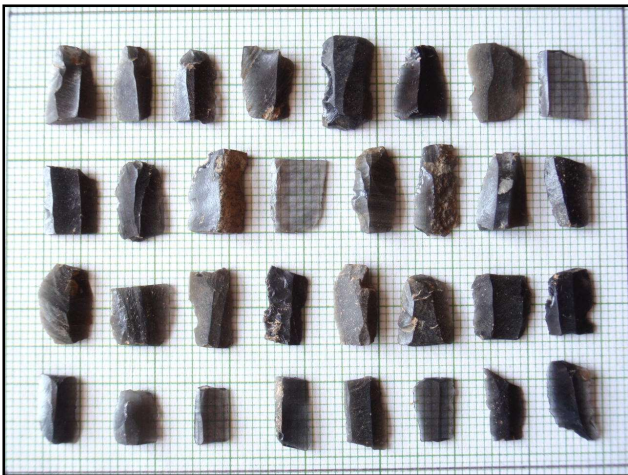
*

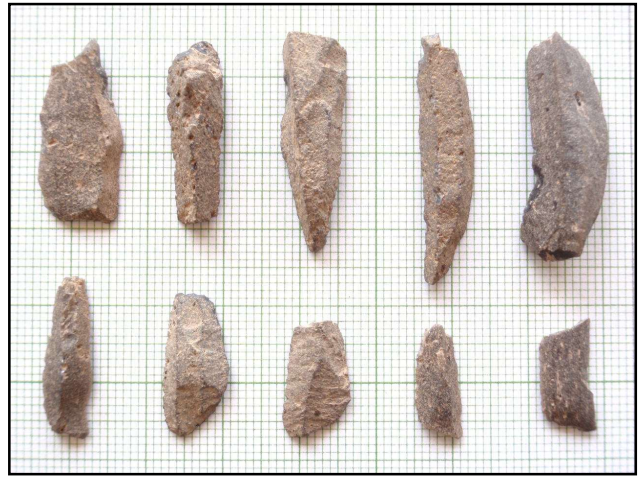
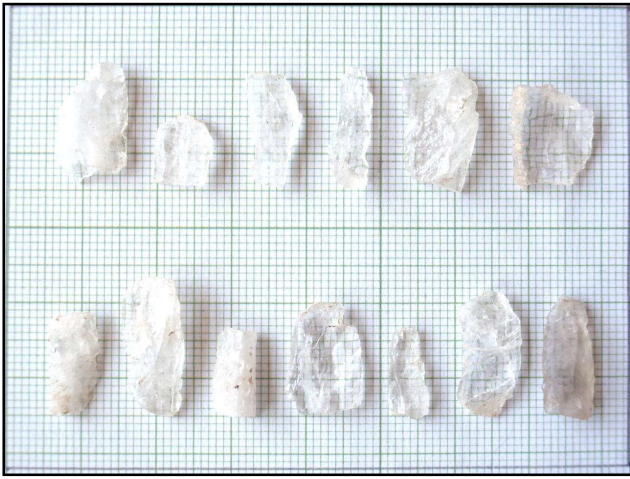












長枿遺跡

「遺跡の概要」

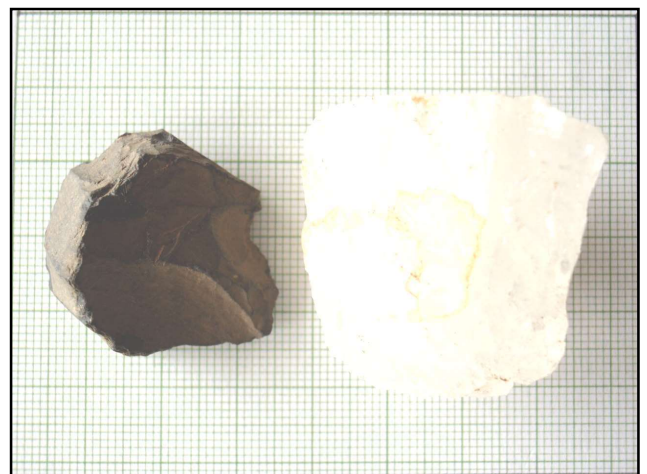
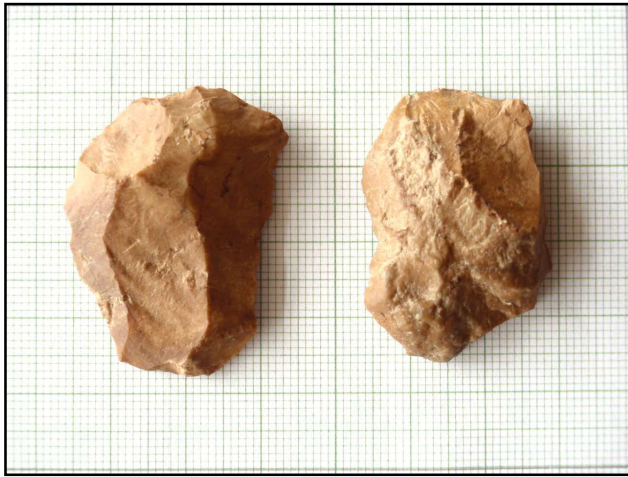
宇部市西岐波字山村長枿 2665、2664 番地に所在する。遺跡は、西方の沢波川に向かい突出する中位段丘の端部平坦面にある。西方の狭い谷底平野が東西に入り込み、現水田面との比高約 10m、標高約 20mである。現状は、畑地で赤色粘土層が露出している。遺跡の北側を 1 地点、南側を 2 地点としている。散在規模は 1 地点で約 50m 四方、2 地点で約 80m 四方である。旧石器時代の遺物は、1 地点でナイフ形石器、角錐状石器、削器、細石核、細石刃、2 地点ではナイフ形石器、削器、細石核、細石刃などがある。その他に、縄文時代の石鏃が採集されている。1 地点出土の細石刃の数は、少なくみても 400 点は下らず、今のところ県下で最も多く出土した遺跡である。

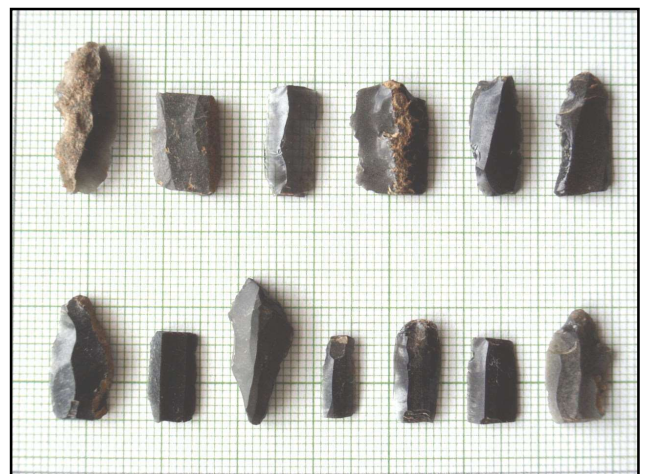
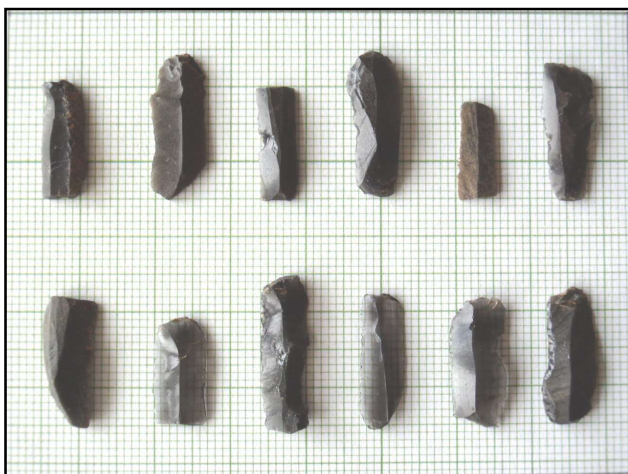
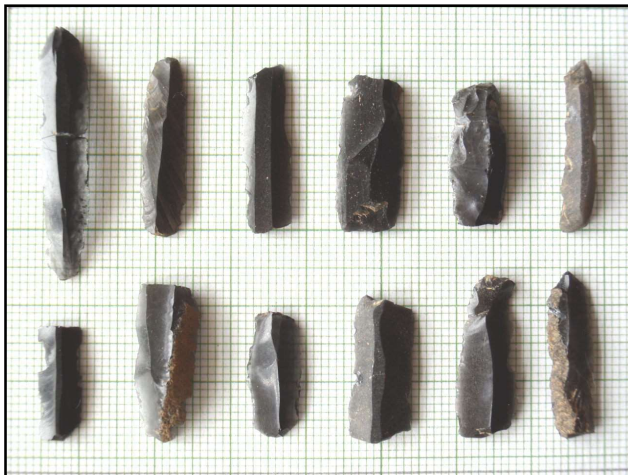
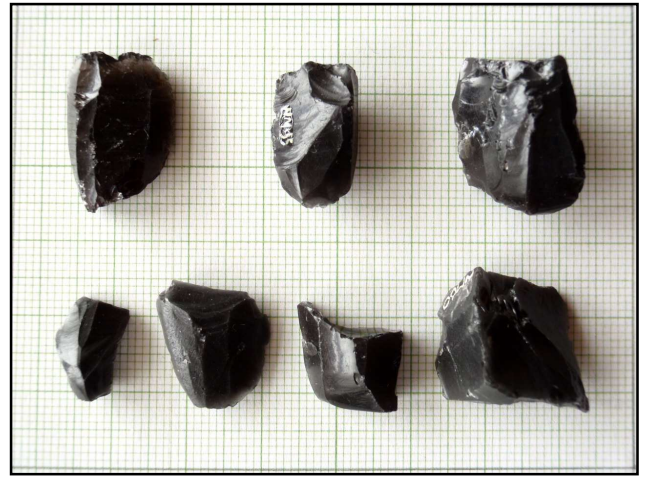
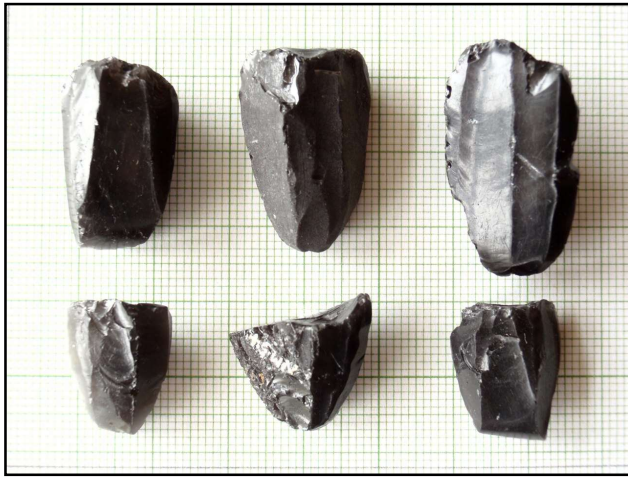


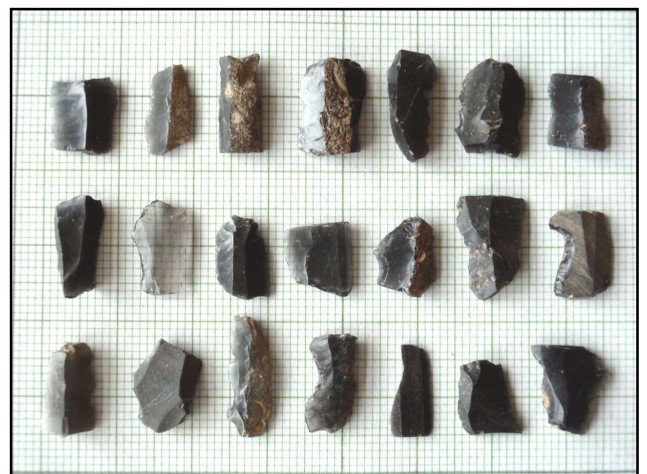
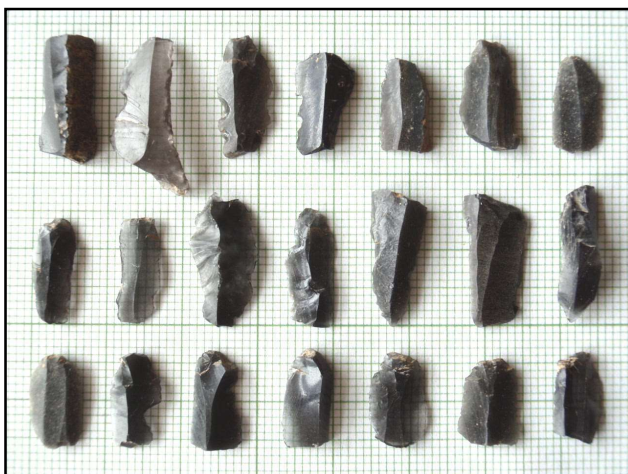
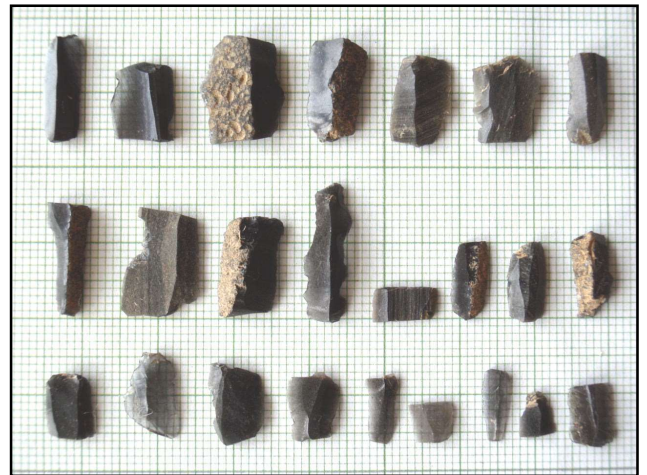
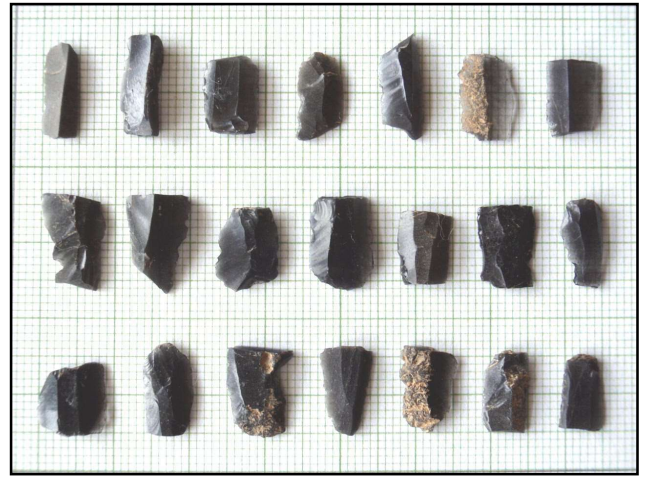


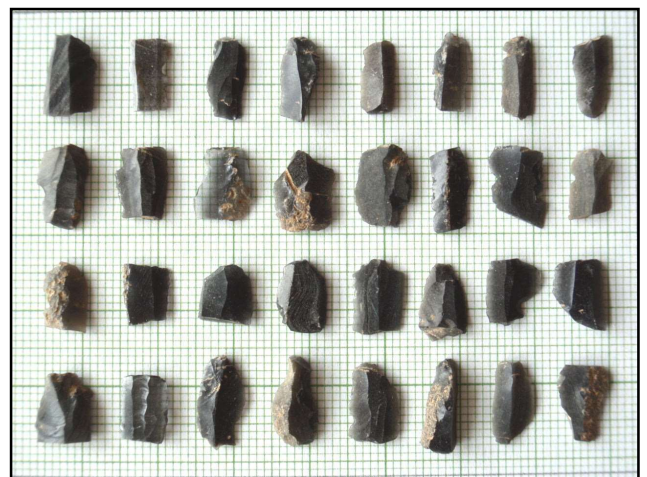
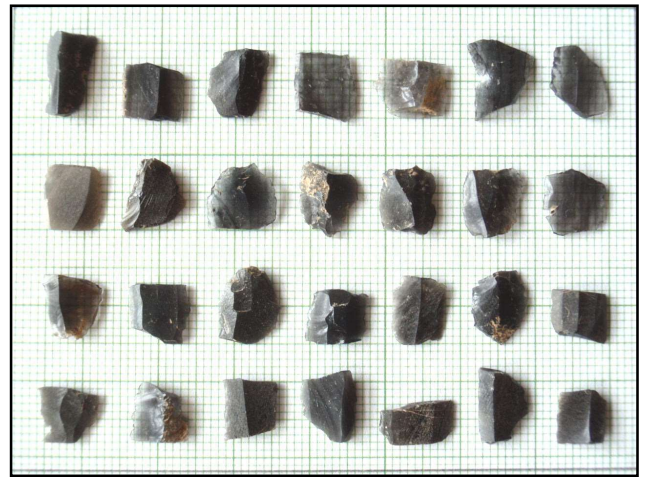
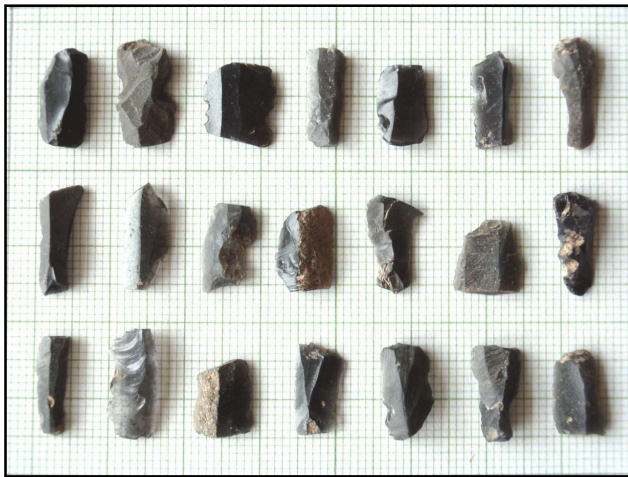
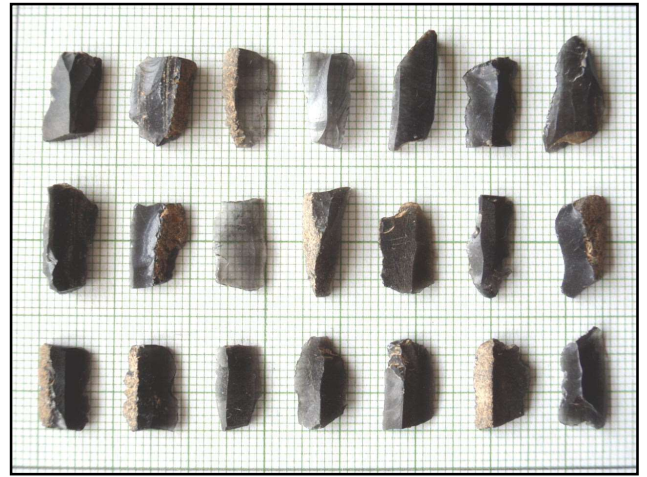
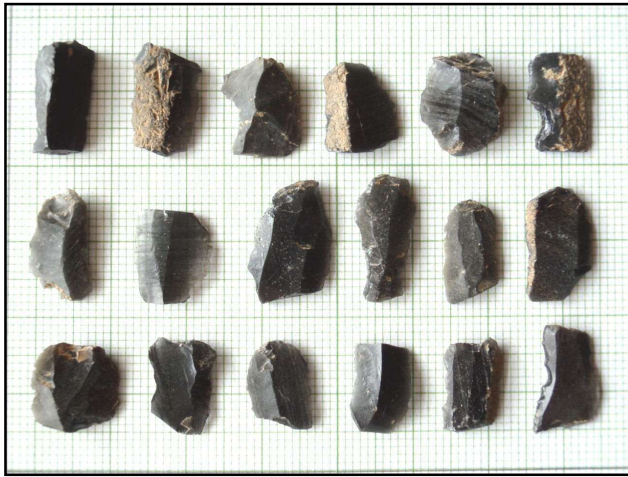
2 地点

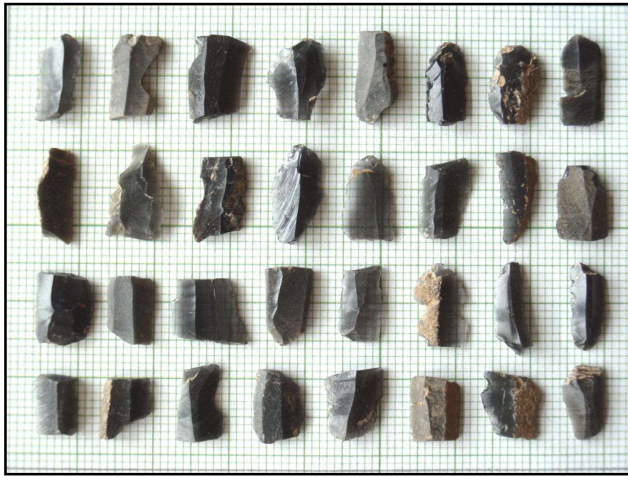








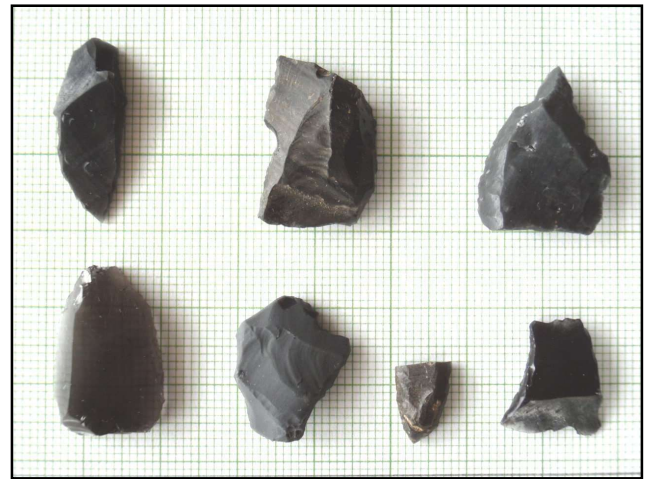


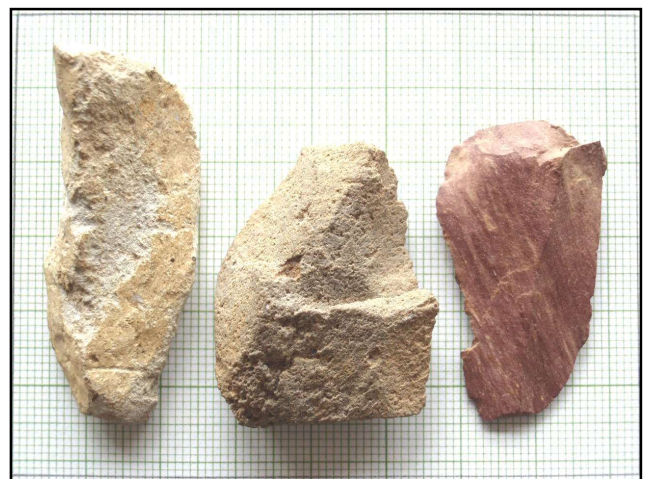


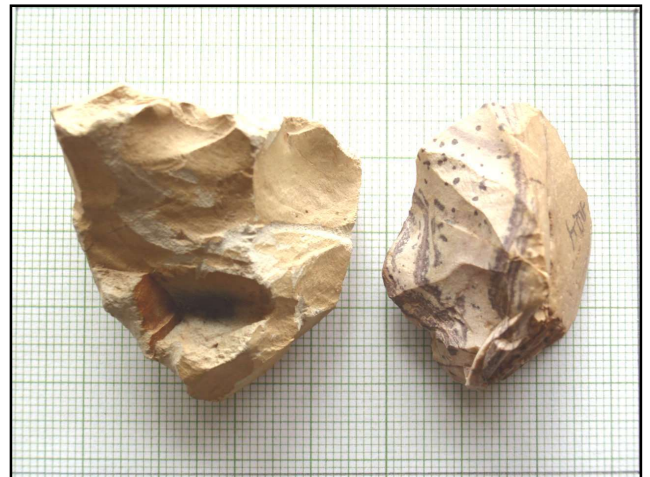
岩上遺跡

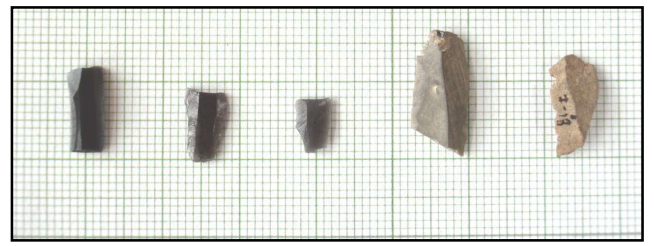
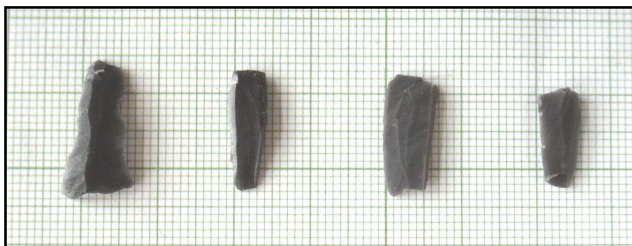
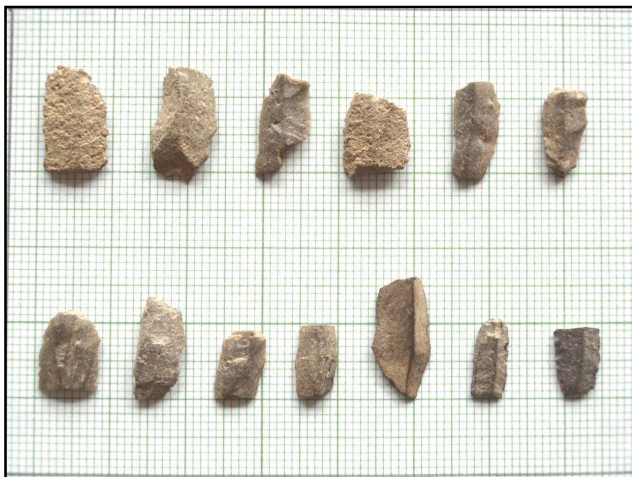
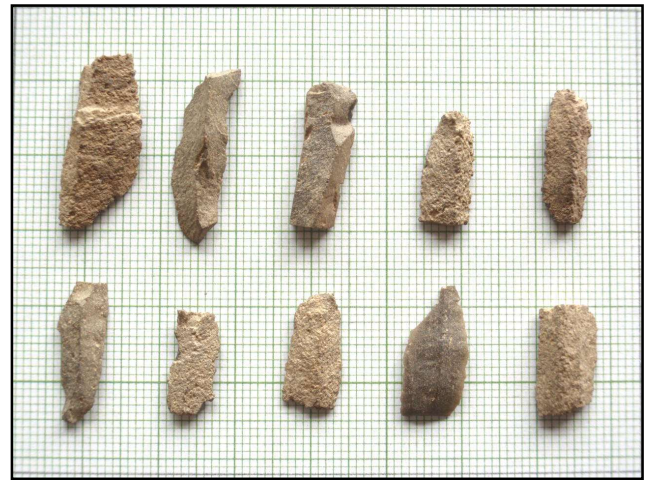
「遺跡の概要」

山口市阿知須字岩倉土路石に所在する。阿知須の北端、土路石川が国道 190 号線と交わる付近に位置する。丸塚山から北北西に延びる丘陵先端部に立地し、中位段丘に比定される。遺跡の北西側には土路石川によって形成された谷底平野が広がっており、現水田面との比高約 10m、標高約 10～15mである。現状は畑地で、赤色粘土層が露出している。遺物は、約 150m×50mの広さに散在し、土路石川に面する北西端に集中していたが、昭和 51 年漬物工場が建設され、調査されないまま破壊された。旧石器時代の遺物は、ナイフ形石器、台形石器、搔器、細石核、細石刃などがある。その他に、縄文時代の石鏃、石斧、スクレーパーなどが採集されている。









宇部小郡地域の旧石器の3 藤尾遺跡

「遺跡の概要」

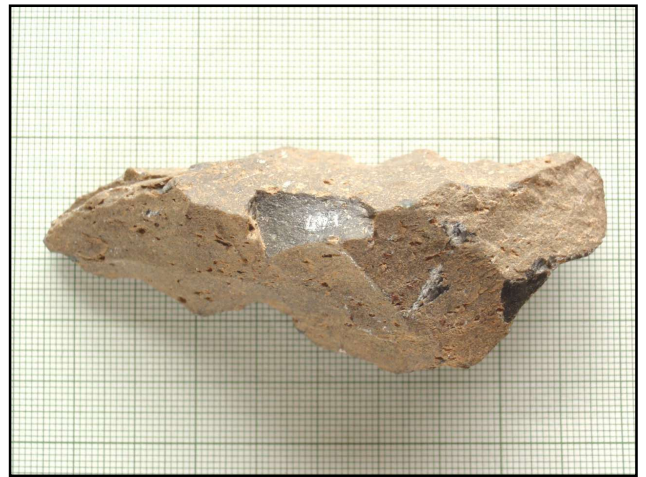
山口市深溝字藤尾原に所在する。遺跡は、榎野川の河口にあたり、山口湾に向かい南東に延びる丘陵上で中位段丘に比定される。丘陵の先端部には藤尾山(標高 69.1m)があり、現在は、藤尾公園になっている。平成4年3月、山口市秋穂二島字幸崎から深溝藤尾原に周防大橋が完成し、秋穂から宇部方面に行く交通が便利になった。遺跡は、現水田面との比高約5～10m、標高約10～20mである。現状は、山林と畑地で赤色粘土層が露出している。遺物は、藤尾山頂とその背後の丘陵、約600m×約200mに広く散在する。旧石器時代の遺物は、ナイフ形石器、台形石器、角錐状石器、搔器、彫器、細石核、細石刃などがある。その他に、縄文～古墳時代の遺物が採集されている。





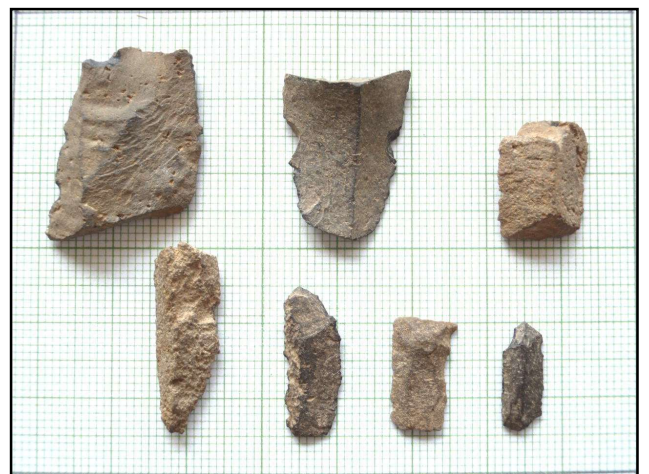
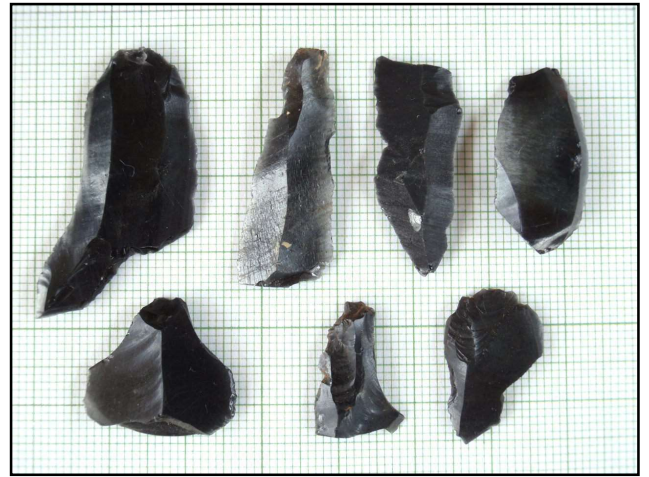


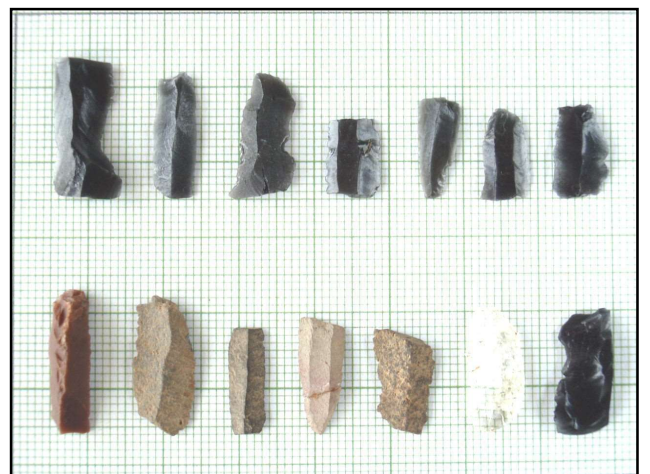
*



*







※旧石器発見の経緯（宇部・山口）

長沢考古研究グループ、防府考古学研究会は、「宇部洪積台地での先土器時代の遺跡発見」がテーマであり、長く旧石器に係わってきた。遺物は山口県旧石器文化研究会によって「古代文化」で紹介され、石器もひとり歩きするようになった。常盤池遺跡、南方遺跡、長桝遺跡、岩上遺跡、藤尾遺跡、幸崎遺跡は長沢考古研究グループ、防府考古学研究会の旧石器の記念碑である。下記に遺跡名、所在地、発見者、発見年月日、発見の経緯、旧石器時代の遺物を記して残すものとする。

遺跡名	所在地	発見者	発見年月日
南方遺跡	宇部市西岐波字山村上ノ山	安達 龍夫	昭和 43 年 3 月 1 日
（発見の経緯） 昭和 43 年 2 月 3 日、長沢考古研究グループが発足した。「宇部洪積台地での先土器時代の遺跡発見」が会のテーマであった。宇部台地の遺跡踏査で発見され、その発見に起因するのが常盤池遺跡である。常盤池遺跡の発見が南方遺跡の発見につながり、長桝遺跡の発見につながっていった。			
（旧石器時代の遺物） ナイフ形石器 台形石器 剥片尖頭器 角錐状石器 彫器 搔器 削器 細石核 細石刃			
（備考） 南潟遺跡、上ノ山遺跡と呼んでいた時期もありました。			

遺跡名	所在地	発見者	発見年月日
岩上遺跡	山口市阿知須字岩倉土路石	三浦 保人 三好 昇	昭和 43 年 3 月 15 日
（発見の経緯） 発見者の 2 人は当時中学 2 年生で、その日、丸塚遺跡に行く予定であった。国道 190 号線を通り阿知須の入り口付近まで来たが、丸塚遺跡の場所が良くわからなかったので、高い所に行けば丸塚遺跡が見えるかと思い、地図を持って豚小屋の所の涯をかけ上った。三角状の畑には、たくさんの剥片があり、スクレーパーや石鏃などが採集された。			
（旧石器時代の遺物） ナイフ形石器 台形石器 搔器 細石核 細石刃など			
（備考） 土路石遺跡と呼んでいた時期もありました。			

遺跡名	所在地	発見者	発見年月日
常盤池遺跡	宇部市沖宇部字常盤溜池 1 番地	高橋 慎二	昭和 34 年 9 月 30 日
(発見の経緯) 宇部の遺跡「常盤池遺跡」の原文より 昭和 33 年 9 月に、山口市長沢池遺跡を発見してから、それにヒントを得て、人造池で農工業用に、その池水が利用されている池は、冬期にもっとも池水が減少することを知り、古代人の生活跡がありそうな立地条件の良い池を、県下の地図でさがしてみたところ、宇部市の常盤池があることが判明したので、昭和 34 年 9 月 30 日に、現地に踏査に出かけた。その結果予想は的中し、ほぼ常盤池の全域から、古代人の使用した石器、土器類等の遺物を採集発見することが出来た。・・・・・・・・			
(旧石器時代の遺物) ナイフ形石器 剥片尖頭器 角錐状石器 搔器 翼状剥片など			
(備考) 中ノ州は昭和 34 年 11 月 15 日発見 長沢池遺跡は昭和 30 年の春に発見したと長沢池遺跡の本にあるので、昭和 33 年 9 月ではないのは明らかである。続防府市史に「昭和 33 年 9 月、長沢池遺跡 A 地区で円形の人工による配石が現れた。」という記述がある。昭和 33 年 9 月は高橋さんが多々良学園高校の 3 年生である。続防府市史に「多々良高校生高橋慎二君によって」の記述があり、昭和 33 年 9 月に発見したことになる可能性がある。			

「参考文献」 長沢池遺跡 著者、高橋慎二 1963 年
続防府市史 続防府市史刊行会発行 1960 年

遺跡名	所在地	発見者	発見年月日
長柵遺跡	宇部市西岐波字山村長柵 2665, 2664 番地	三浦 文夫 三浦 保人	昭和 44 年 9 月 21 日
(発見の経緯) 長柵は南方遺跡の近くにあり、いつも長柵の地点を横目に見ながら自転車で南方遺跡まで行っていた。気にはしていたが、そこに行かなかったのは、その頃の遺跡感覚というか、大きな台地(藤尾遺跡、岩上遺跡、南方遺跡など)に遺跡があるイメージがいつもあったからである。ある日、南方遺跡へ行ってからの帰り、長柵の地点を探して見ることにした。探すのに余り時間はかからないだろうし、石器が見つからなくても元々である。行って見なければわからないものである、ナイフ形石器、細石核、細石刃、石鏃を採集した。それは、南方遺跡が発見されて 1 年半も過ぎた昭和 44 年 9 月 21 日のことであった。			
(旧石器時代の遺物) ナイフ形石器 角錐状石器 削器 細石核 細石刃など			
(備考) 本郷遺跡、上ノ山ⅡⅢ地区遺跡と呼んでいた時期もありました。			

遺跡名	所在地	発見者	発見年月日
藤尾遺跡	山口市深溝字藤尾原	高橋 慎二	昭和 35 年 11 月
(発見の経緯) 発見の経緯はわからないので、「宇部洪積台地における先土器遺跡の実態」の中より、藤尾山遺跡の文中をもって、それに代えたい。 「藤尾山遺跡」より 昭和 35 年 11 月に高橋慎二が発見したもので、初期には遺物も少なく、その性格がはっきりつかまれていなかったが、会結成以来、たびかさなる踏査で遺物の量も増し、現在では先土器時代と縄文時代の遺跡であることが判明した。			
(旧石器時代の遺物) ナイフ形石器 台形石器 角錐状石器 彫器 搔器 細石核 細石刃など			
(備考) 唐樋遺跡、藤尾山遺跡と呼んでいた時期もありました。			

遺跡名	所在地	発見者	発見年月日
幸崎遺跡	山口市秋穂二島字幸崎・南・二島	高橋 慎二他	昭和 37 年 6 月 17 日
(発見の経緯) 発見の経緯は故高橋慎二氏のメモをもって、それに代えたい。 「高橋さんのメモ」より 山口君及山口大学考古学会員と秋穂二島地区踏査、二島山口出張所前九時着 採集品 旧石器文化のフレーク十数個 石鏃四個 縄文土器採集、散布地二ヶ所発見 横穴式石室墓 三ヶ所 弥生式土器片採集 須恵器、土師器採集			
(旧石器時代の遺物) ナイフ形石器 台形石器 角錐状石器 搔器 細石核 細石刃など			
(備考) 昭和 37 年 5 月 28 日、山口考古学研究グループが発足した。 縄文土器採集、散布地二ヶ所発見(幸崎遺跡 I 地区,芒ヶ原遺跡) 幸崎遺跡は I ～IV 地区あり			

※ 山口県の旧石器時代の遺跡 2011

番号	遺跡名	所在地	旧石器遺物
1	はば 羽波遺跡	とくさなか 山口市阿東徳佐中字羽波	ナイフ形石器
2	ふくがもり 福賀森遺跡	ふくだしも もりみふじ 阿武郡阿武町福田下字森見藤市ヶ原	ナイフ形石器
3	こうさか 高坂遺跡	ふくいしも 萩市福井下字高坂	細石核・細石刃
4	あまごいだい 雨乞台遺跡	へきしも 長門市日置下字雨乞	国府型ナイフ形石器 ナイフ形石器・台形石器 有舌尖頭器・細石刃
5	こくしゅう 国秀遺跡	かま 美祢市秋芳町嘉万字国秀正田	ナイフ形石器・尖頭器
6	きたうま 北馬コロビ遺跡	美祢市美東町大田字馬コロビ	搔器・尖頭器
7	やまのくち 山ノ口遺跡	よしか ぼうざこ 下関市菊川町吉賀字防迫山ノ口	横長剥片
8	たかの 高野遺跡	かわだな 下関市豊浦町川棚字高野	ナイフ形石器
9	せんだう 船頭遺跡	しらたき 下関市豊浦町吉永字白滝船頭	細石核
10	あきね 秋根遺跡	下関市秋根	台形石器・搔器
11	のぶゆきじょうりあと 延行条里跡遺跡	下関市延行	ナイフ形石器
12	あやらぎごうだいち 綾羅木郷台地遺跡	下関市綾羅木字大歳・恵のふ田	ナイフ形石器
13	ゆむた 湯無田遺跡	こおり 山陽小野田市郡字湯無田溜池	ナイフ形石器
14	さんがこうち 三ヶ河内遺跡	ちざき 山陽小野田市千崎字三ヶ河内池	ナイフ形石器・角錐状石器
15	にしがこうち 西ヶ河内遺跡	山陽小野田市千崎字西ヶ河内堤	ナイフ形石器・石刃
16	やまぐちだいがくいがくぶこうない 山口大学医学部構内遺跡	みなみこぐし 宇部市南小串1丁目	ナイフ形石器

番号	遺跡名	所在地	旧石器遺物
17	かみはらだ 上原田遺跡	にしきべ おさか 宇部市西吉部字小阪	台形様石器
18	かわづ 川津遺跡	宇部市中村 1 丁目川津	湧別技法の石核未製品 ナイフ形石器・細石刃
19	じゃぜいけ 蛇瀬池遺跡	きたおばやま 宇部市北小羽山町 4 丁目	角錐状石器
20	ときわいけ 常盤池遺跡 A 地区	宇部市沖宇部字常盤溜池 1 番地	剥片尖頭器
21	常盤池遺跡 B 地区	同上	ナイフ形石器
22	常盤池遺跡 C 地区	同上	ナイフ形石器・角錐状石器
23	常盤池遺跡 D 地区	同上	ナイフ形石器・剥片尖頭器 角錐状石器
24	(中ノ州) 常盤池遺跡 G 地区	同上	翼状剥片・搔器
25	おかのつじ 岡ノ辻遺跡	宇部市西岐波字岡ノ辻	ナイフ形石器
26	にしよしさわ 西吉沢遺跡	宇部市西岐波字上片倉西吉沢	ナイフ形石器・角錐状石器 細石刃
27	みやのあと 宮ノ後遺跡	宇部市西岐波字上ノ原清水	ナイフ形石器・角錐状石器
28	みなみがた 南方遺跡	宇部市西岐波字山村上ノ山	ナイフ形石器・台形石器 剥片尖頭器・角錐状石器 彫器・搔器・削器 細石核・細石刃
29	ながます 長柵遺跡 1 地点	宇部市西岐波字山村長柵	ナイフ形石器・角錐状石器 削器・細石核・細石刃
30	長柵遺跡 2 地点	同上	ナイフ形石器・削器 細石核・細石刃
31	ほんごう 本郷遺跡	宇部市西岐波字山村本郷	ナイフ形石器・尖頭器 細石核・細石刃
32	うえのはら 上ノ原遺跡	宇部市西岐波字上ノ原西迫	ナイフ形石器・台形石器 細石刃

番号	遺跡名	所在地	旧石器遺物
33	みなみがたうら 南方裏遺跡	宇部市西岐波字上ノ原	ナイフ形石器
34	しらつち 白土遺跡	宇部市西岐波字白土後	剥片尖頭器
35	かぐらでん 神楽田遺跡	宇部市西岐波字白土神楽田	ナイフ形石器
36	よしだ 吉田遺跡	宇部市西岐波字吉田	ナイフ形石器
37	もとやま 本山遺跡	宇部市東岐波字王子本山	ナイフ形石器
38	ひらはら 平原遺跡	宇部市東岐波字大田平原	角錐状石器
39	まえだ 前田遺跡	宇部市東岐波字前田	神子柴系局部磨製石斧
40	まえだきた 前田北遺跡	宇部市東岐波字前田	ナイフ形石器
41	ひのやま 日ノ山遺跡	おこごう 山口市阿知須字小古郷	ナイフ形石器
42	むかいがわ 向川遺跡	山口市佐山字由良向川	搔器・細石刃
43	にのもののみがおか 二ノ物見ヶ丘遺跡	山口市佐山字二ノ物見ヶ丘	ナイフ形石器
44	いわかみ 岩上遺跡	山口市阿知須字岩倉土路石	ナイフ形石器・台形石器 搔器・細石核・細石刃
45	まるづか 丸塚遺跡	山口市阿知須字丸塚	ナイフ形石器
46	ふじお 藤尾遺跡	山口市深溝字藤尾原	ナイフ形石器・台形石器 角錐状石器・搔器・彫器 細石核・細石刃
47	いまづ 今津遺跡	山口市江崎字東今津	ナイフ形石器
48	まえむら 前村遺跡	山口市江崎字岡屋前村	ナイフ形石器
49	はらじょう 原条遺跡	山口市江崎字原条	ナイフ形石器

番号	遺跡名	所在地	旧石器遺物
50	しもなか 下中遺跡	山口市嘉川字下中野	ナイフ形石器
51	けわり 毛割遺跡	山口市下小鯖字遊ヶ原	ナイフ形石器
52	よしだ 吉田遺跡	山口市吉田(山口大学構内)	ナイフ形石器
53	どうどう 堂道遺跡	どうこん 山口市黒川字堂紺	ナイフ形石器
54	やまだ 山田遺跡	山口市陶字西陶	搔器
55	とうぜんじ・くろやま 東禅寺・黒山遺跡	山口市鑄銭司字黒山	有舌尖頭器
56	おぐちやま 尾口山遺跡 (黒山裏・和西)	山口市鑄銭司字天神原・尾口山	ナイフ形石器
57	こうら 河原遺跡 (杉原)	山口市鑄銭司字今宿通の下	ナイフ形石器 細石刃
58	ながさわいけ 長沢池遺跡C地区	山口市今宿字長沢池	ナイフ形石器
59	長沢池遺跡D地区	同上	搔器
60	はらのまえ 原ノ前遺跡	山口市秋穂二島字大里	ナイフ形石器
61	こうざき 幸崎遺跡Ⅰ地区	山口市秋穂二島字幸崎	角錐状石器
62	幸崎遺跡Ⅱ地区	山口市秋穂二島字南	ナイフ形石器・搔器 細石核
63	幸崎遺跡Ⅲ地区	山口市秋穂二島字南	ナイフ形石器・台形石器 角錐状石器・搔器・ 細石核・細石刃
64	幸崎遺跡Ⅳ地区	山口市秋穂二島字二島	ナイフ形石器
65	ながはま 長浜遺跡	山口市秋穂二島字長浜	ナイフ形石器・角錐状石器 細石核・細石刃
66	みのがはま 美濃ヶ浜遺跡	山口市秋穂二島字田ノ尻	ナイフ形石器

番号	遺跡名	所在地	旧石器遺物
67	にんこうじ 仁光寺遺跡	山口市秋穂西字宮ノ旦	ナイフ形石器
68	あまた 天田遺跡	山口市秋穂西字東天田	細石刃
69	こうだひがし 幸田東遺跡	山口市秋穂西字宮ノ旦	ナイフ形石器
70	みやのだん 宮ノ旦遺跡	山口市秋穂西字宮ノ旦	ナイフ形石器
71	あおえ 青江遺跡 (中津原)	山口市秋穂東字西青江中津原	ナイフ形石器・角錐状石器 細石刃
72	はずくら 筈倉遺跡	山口市秋穂東字筈倉	国府型ナイフ形石器
73	ちゅうどう 中道遺跡	山口市秋穂東字中道	ナイフ形石器
74	こばま 小浜遺跡	山口市秋穂東字小浜	ナイフ形石器・細石刃
75	みやのまえ 宮ノ前遺跡	防府市台道字大原開拓山	ナイフ形石器・角錐状石器 搔器
76	きどこ 木床遺跡	防府市台道字下津令木床	ナイフ形石器
77	あがりくま 上り熊遺跡	防府市台道字上り熊峠	ナイフ形石器
78	しばやまうら 柴山裏遺跡	防府市台道字岡条柴山	ナイフ形石器・細石核
79	きりはたみなみ 切畑南遺跡	防府市切畑字西山	細石核・細石刃
80	はら 原遺跡	防府市台道字岩淵原	ナイフ形石器
81	ひめやま 姫山遺跡	防府市大崎字日ノ本	ナイフ形石器
82	わだ 和田遺跡	防府市上右田字和田	ナイフ形石器
83	いのやま 猪ノ山遺跡	防府市真尾字猪ノ山	有舌尖頭器
84	ゆのとうげした 湯ノ峠下遺跡	なかのうら 防府市田島字中浦	ナイフ形石器

番号	遺跡名	所在地	旧石器遺物
85	まるやま 丸山遺跡	防府市向島字丸山	ナイフ形石器
86	あまご 天子遺跡	周南市鹿野字天子	石核・剥片
87	くろしまはま 黒島浜遺跡	いほのしょう 柳井市伊保庄字黒島浜	翼状剥片
88	かわいけ 河池遺跡	かみくばら 岩国市周東町字上久原	尖頭器
89	ようだ 用田遺跡	岩国市周東町字用田	有舌尖頭器

「参考文献」

- ① 第 25 回 中・四国旧石器文化談話会「中国地方西部の旧石器文化」 発表要旨・資料集
第 25 回 中・四国旧石器文化談話会実行委員会発行 2008 年
- ② 山口県史 資料編 考古 I 山口県発行 2000 年
- ③ 宇部の遺跡 宇部市教育委員会発行 1968 年
- ④ 山口市文化財地図 山口教育委員会 1981 年

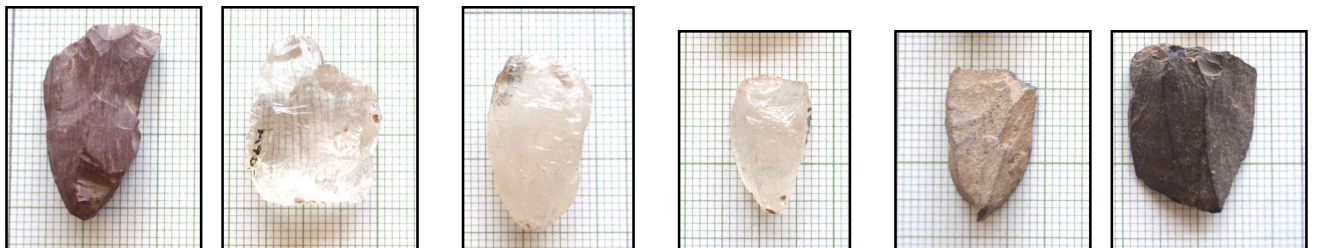
※ 1 : 25000 の地形図（国土地理院）を参考にして、YAHOO ! JAPAN の地図で検索した。遺跡の順番は山陰から山陽、反時計まわりにした。大字については、問題がないと思われるが、字については、はっきりしない所もあり、間違いに気付かれたら訂正してください。石器については、削器、槍先形尖頭器で縄文時代とも考えられるものは除いた。

※山口県の旧石器、遺跡の現状と未来

遺跡の現状には、きびしいものがある。この 10 数年、遺跡には行ったことがないが、YAHOO ! JAPAN の地図で遺跡の場所を写真で見る事ができる。南方遺跡には住宅が建ち、長桝遺跡 1 地点の主要地点に県道 219 号線の道路が通る。岩上遺跡の主要地点に漬物工場が建ち、藤尾遺跡は幸崎から藤尾原に周防大橋が架かり、県道 25 号線が通り、また遺跡を縦断するように道路が通る。その他の遺跡でも住宅などが建ち、昭和 40 年代の発見当時に比べれば遺跡の様子も大きく変わった。山口県の旧石器時代の遺跡は、増え続けて平成 23 年現在 90 箇所近く確認することができる。遺跡の数は増えたが、そのほとんどが 1～10 個位の石器が発見された遺跡で、多くの石器が発見された遺跡は僅かである。その中でも、南方遺跡、長桝遺跡、岩上遺跡、藤尾遺跡、幸崎遺跡Ⅲ地区は多くの石器が発見され、山口県の旧石器時代の研究及び山口県の貴重な文化財また県民の財産でもある。それらの遺跡の遺物が未来いつまでも山口県の貴重な文化財として残すことを真剣に考えなければならない時期である。

※石核で気づいた点（打面なしコアについて）

昭和40年代になると山口県においても旧石器時代の遺跡も増え、今まで旧石器の遺物が発見されていない遺跡までも旧石器の遺物が発見される状況であった。その様な折り、細石核の資料も日増しに増えていた。その頃、山口県防府市台道字小俣に所在する小俣遺跡から細石核に似た石核が発見された。小俣遺跡は縄文、古墳時代の複合遺跡で、その地点は1～1.5cm位の小形の安山岩製石鏃が20個余り発見されていた。その様な遺跡であるが、細石核が発見されていけない理由などない。しかしそれが細石核であるならば当然、細石刃が発見されるだろうし、その他の旧石器の遺物も発見できるとかたく信じていた。細石刃らしきものはあったが、「細石核・細石刃らしきもの」それは細石核、細石刃であろうか。「細石核・細石刃らしきもの」は、安山岩製で他の旧石器時代の遺跡から発見される細石核は黒曜石、ガラス質安山岩、水晶などが多く、安山岩はほとんどない。仮にあったとしても、その他の石材に比べ剥離し難いことに間違いない。安山岩は余り細石核に使われず、そして細石核、細石刃らしき、また縄文時代の遺跡であることが脳裏をかすめ疑いは深まるばかりであった。その頃、山口県宇部市西岐波字山村上ノ山に所在する南方遺跡においても、その様なことが起きた。細石核に似ているが打面がない。打面がないと言うより打面が少ない、または、ないものもあると言ったほうが良いかもしれない。細石核に似ているだけでは、何の結論もでない。一時は、広義の細石核ではないかと考えたこともあったがそうでもない。結論が出る前に、それにはいつのまにか名前がついていた。打面がないので「打面なしコア」と、打面が少ない、または、ないのが特徴だからその名前がついたと思われる。それから、疑いは脳裏から離れず月日は経っていった。2～3年、経った頃であろうか。アインシュタインの言葉に「疑問をもつことはそれを説いたと同じ」だったか良くは忘れたがチャンスが来ていたのである。私達は、暇さえあればよく石器製作をしていた。細石刃は、黒曜石などの良い石材と錐みみたいな道具があれば、足に黒曜石をはさみ、おもしろいように出来た。黒曜石の原石を台石の上に置いてハンマーで割っている時である。割って行くうちに原石は1つが2つに、2つが4つに、だんだん小さくなって行く。小さくなった石材を上からハンマーで思い切り叩くと石はこなごなになる。と言うのは少し言い過ぎで、同時に石材が2つ以上3つ4つ、またはそれ以上に分断される。それが打面なしコアの正体であった。剥離されたのが打面なし剥片で、残ったのが打面なしコアである。技術的にめずらしいとか、難しいと言う物ではない。人類が石器を作り始めて早い段階の技術で、直接打撃の台石技法によるものである。「打面なしコア」は特殊な条件下、必ずできる石核と言って良い。私にとって良い勉強の機会だったと思います。



※南方遺跡（打面なしコア）

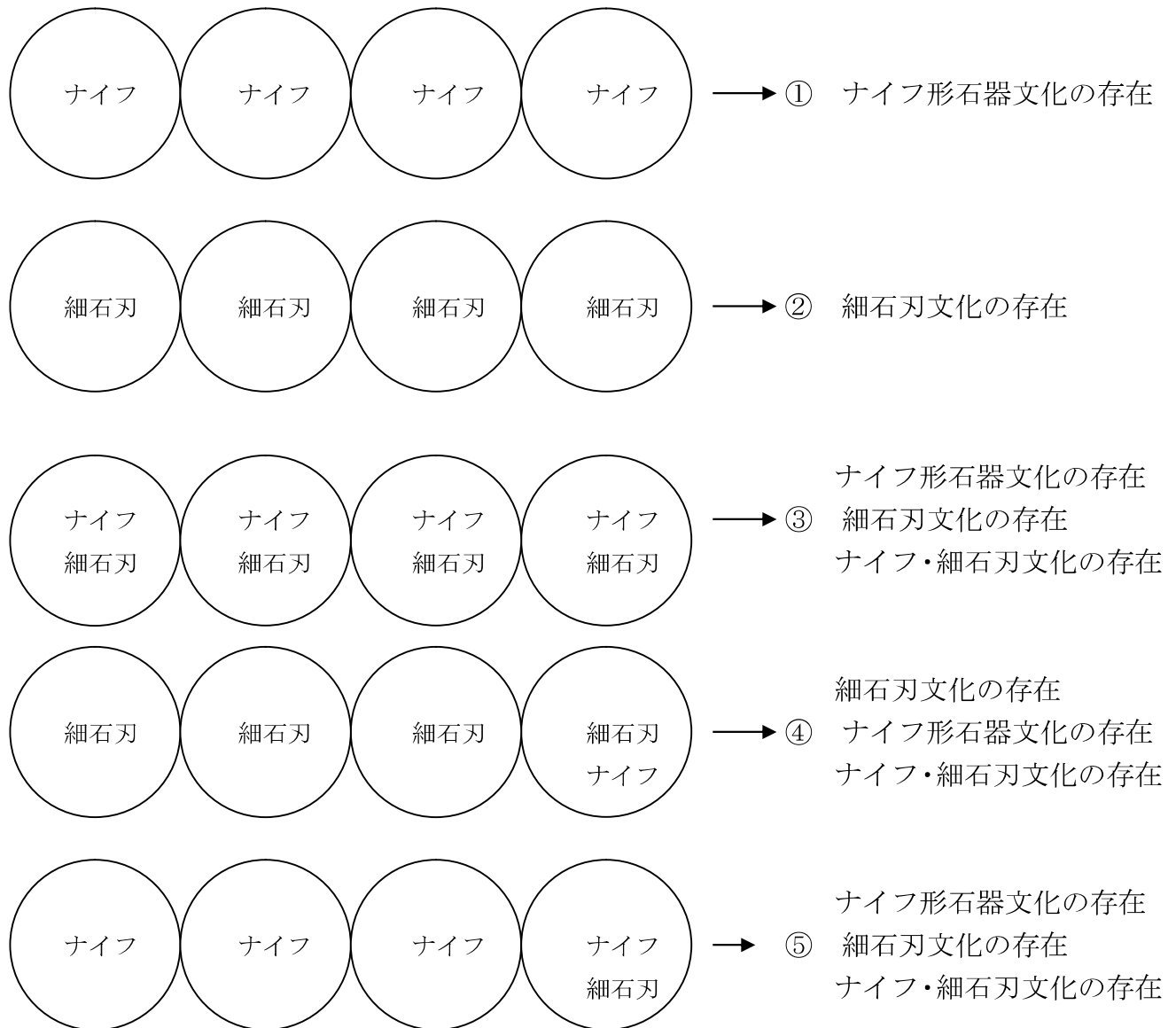
※細石刃の集中とナイフ形石器の分散

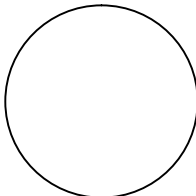
私は考古学の専門家ではない。だから、石器についてはよくわからないところが多い。しかし、考古学の専門家よりよく知っていることがひとつある。それは、高校時代よく石器を拾ったせいで、どの遺跡のどの場所のどの畑のどの畝で石器が見つかるか、経験上よく知っているのである。それにどのような意味があるか深く考えたことはなかったが、近頃それには意味があるのではないかと思った。どの遺跡でも大体、石器や剥片が出土する集中地点が存在する。この度は、細石刃の集中とナイフ形石器の分散について考えて見ることにした。岩上遺跡、藤尾遺跡、幸崎遺跡Ⅲ地区で細石刃が発見される場所は決まっている。南方遺跡、長柵遺跡1地点は、それらに比べると細石刃が発見される範囲は広いが、ある程度決まっている。細石刃が集中するのに対して、ナイフ形石器はかなりそれより広い範囲で発見される。その違いは何であろうか。細石刃が集中する場所は、旧石器人の生活場所、キャンプ地と考えられる。ナイフ形石器についてはどうだろう。藤尾遺跡は広いが、ナイフ形石器が発見された場所は、ある程度集約できる。遺物の散在を、故高橋慎二氏は高低差で3つの地点に区別している。^①私も、藤尾山頂遺跡をはじめとして、ナイフ形石器が発見された場所を4ヶ所位に分ける事ができると考えている。それらの地点は、細石刃と同様旧石器人の生活場所、キャンプ地と考えられる。その様に考えれば、細石刃のキャンプ地より、ナイフ形石器のキャンプ地が多いことになる。細石刃の集中とナイフ形石器の分散は、ナイフ形石器の文化、細石刃の文化が存在することを意味する。ナイフ・細石刃の文化の存在も考えられるが、この考えかたで証明できる可能性は低い。わかりやすいように次ページに例をあげてみた。5つのパターンについて考えて見ることにする。①はナイフ形石器文化の存在②は細石刃文化の存在③④⑤はナイフ形石器文化の存在、細石刃文化の存在、ナイフ・細石刃文化の存在が考えられる。③④⑤は同じような存在であるが、少し内容が違う。③のパターンは④⑤のパターンに比べナイフ・細石刃文化の存在の可能性が高い。宇部台地の旧石器遺跡群は⑤に近い遺跡群である。いまさら、このような存在は誰もが知るところである。しかし、そのような情報は、本などで知りえたもので自分の考えたものではない。これは、自分なりに見えた旧石器の、ひとコマかもしれない。

「参考文献」

- ① 宇部洪積台地における先土器遺跡の実態 長沢考古学研究会発行 1975年

※例



※  は、ナイフ形石器、細石刃の集中地点（キャンプ地）

宇部台地の旧石器遺跡群は⑤に近い遺跡群である。

終わりに

※あきらめない

幸崎遺跡Ⅲ地区で石鏃を拾ってから、もう 40 年以上になる。40 年以上と言えば、長く考古学をやっているみたいで聞こえはいいが、決してそうでもない。良くやった時期は、合わせても数年と思われる。私は、考古学に才能がある人間ではない。石器を書いても下手だし、文を書いても支離滅裂である。やる前に自分にはできない、できないだろうと、決めて何もしない自分がいる。何かしなければいけない、そう思う自分もいるが、その一歩がなかなか踏み出せない。だから、本もなかなか完成しない。こんな私であるが、決してあきらめたりはしない。今、自分でも出来ることは何か考えて見た。いま私は、石器や土器の写真集を作成しています。パソコンもデジカメも何もわからないで始めたので、2ヶ月位「これでもか」と言う程たくさん失敗しましたが、去年の9月やっと「台道古代文化」が完成しました。防府考古学研究会にはたくさんの遺物があります。それらの遺物を写真に撮り本にして残そうと思っています。いつすべてが仕上がるか先は見えませんが、決してあきらめたりはしません。

宇部・小郡地域の旧石器

南方・長桝・岩上・藤尾遺跡編

平成23年（2011）2月3日発行

防府考古学研究会

